

★ 特集：建築意匠における煉瓦の魅力と可能性 ★

インタビュー

環境資源と建築との調和を生む可能性を 土や煉瓦は秘めている

株式会社 ASEI 建築設計事務所 代表 鈴木 亜生 氏に聞く

街中の建物意匠の多くが、ガラスやコンクリート、窯業系サイディングなど無機質なものになっている。そうした中、地域に眠る魅力を再発掘し、それを建築へと昇華する「クリエイティブ・リソース」を提唱する気鋭の建築家が鈴木亜生氏だ。地域の土に着目し、煉瓦やブロックを用いた環境建築は数多くの建築賞を受賞し、高い評価を受けている。本稿では、鈴木亜生氏に普段の仕事の中から感じる煉瓦の魅力、そして建築設計におけるクリエイティブ・リソースの在り方など話を聞いた。

(取材T)



▲「資源循環社会にあつては、職人や製造者の意見を伺いながら、一緒になって土地で生まれた資材を作り、建築へと昇華させることが建築家の新たな役割ではないかと思っています」と語る鈴木氏

クリエイティブ・リソースという考え方

——これまでのお仕事について教えてください

15年くらい前に中村拓志& NAP 設計事務所建築から独立し、ASEI 建築設計事務所の前身である ARAY Architecture を設立しました。最初に手掛けた仕事は、九州南部に広く分布する火砕流噴出物シラスを利用し、非焼成ブロックを使用した個人住宅です。

鹿児島では舗装ブロックやコンクリートに使用する砂利や川砂の代替資源としてシラスが使われています。そこで当時、普及し始めていた舗装用シラス平板ブロックの加圧成型技術を生かし、建築の組積材としては初めての製作を試みました。外壁ブロックは、材料強度を確保するためシラスの配合を変え、内壁ブロックには吸放湿性を高めるためシラス原石を象嵌しています。住宅は、そのシラスブロックを積み上げた内外中空層二重壁の構造で、室内はシラスの洞窟の内部にいるような土に包まれた空間です。また、高温多湿な鹿児島の気候でもエネルギーに頼らず環境に配慮したエコロジーな暮らしを施主様が希望されていたので、断熱

【プロフィール】

鈴木 亜生(すずき・あせい)

株式会社ASEI建築設計事務所 代表

【経歴】

1977 静岡県生まれ
2002 東京理科大学大学院理工学研究科修士課程修了 川向研究室
2003 乾久美子建築設計事務所
2004～2008 中村拓志& NAP建築設計事務所 設計室長
2009 ARAY Architecture設立
2015 東京理科大学工学部建築学科非常勤講師
2018 株式会社ASEI建築設計事務所 改組

【主な受賞歴】

2013 建築仕上材料技術・デザイン競技2013 最優秀賞
2014 住まいの環境デザイン・アワード2014 グランプリ
2014 Good Design Award 2014 グッドデザイン賞
2014 日本建築学会作品選集 入選
2014 World Architecture Community Awards 20+10+X 17th Cycle, Winner
2015 日本建築学会作品選集 新人賞
2015 THE INTERNATIONAL ARCHITECTURE AWARD 2015 受賞
2017 第7回サステナブル住宅賞 ベターリビング理事長賞(優秀賞)
2018 第4回これからの建築士賞 受賞
2021 第19回環境・設備デザイン賞 受賞
2023 第三回山田幸司賞 特別賞
2023 日本空間デザイン賞2023 サステナブル空間賞